

目標年度：令和2年度

策定年度

令和2年度

2020年度玉川村水田農業水田フル活用ビジョン

名称：玉川村農業再生協議会

1 地域農業の作物作付の現状、地域が抱える課題

玉川村は、日照時間の豊かな西部地区にあつては、水稲（コシヒカリ・ひとめぼれ・天のつぶ）を中心に野菜等（トマト・きゅうり・なす）が産地化されております。

東部地区にあつては、水稲に加え、畜産や特産品（トマト・きゅうり・なす・いんげん）を中心とした農業経営が行われております。また、畜産業が盛んな地区のため、飼料作物（カボチャ・トウモロコシ）などの取組みが多くなっております。

課題としては、主食用米の作付割合が高く、米価の下落を予防し安定した農業経営を確立するために収益性の高い作物への転換を推進する必要があります。

また、有効活用されていない遊休農地が多いことがあげられ、飼料作物や土地利用型作物の作付の促す取組みが必要となります。

2 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

コシヒカリ、ひとめぼれ、天のつぶを主品種とし、省力化や生産コストの低減を図るため、直播栽培の拡大を推進します。

また、環境にやさしい米づくりとして、環境保全米の推進を図ります。

玉川村の銘柄米のブランド化を進め、さらに良食味米・特別栽培米等のこだわり栽培を強化し、米卸、特定の消費者（ベンダー）、学校給食等での多様な販売体系を確立し、「東京玉川会」やふるさと納税寄付金の返礼品などを活用し、消費地におけるPRを推進します。

(2) 非常食用米

ア 飼料用米

飼料用米の生産拡大にあつては、国からの水田活用の直接支払交付金及び産地交付金を活用した多収品種の導入推進及び団地化の推進を図り拡大に努めます。耕畜連携により、わら利用の供給を活用し連携を図ります。

イ 米粉用米
該当なし。

ウ 新市場開拓用米
該当なし。

エ WCS用稲

主食用米の需給減が見込まれる中、WCS用稲の需給調整を図り、畜産農家との連携をとり作付面積の拡大を図ります。また、飼料生産請負組織(コントラクター)の育成を図ります。耕畜連携により安定的な飼料供給を推進します。

オ 加工用米

多様なニーズにあった米の品種導入を進め、供給数量の拡大を目指します。コスト低減技術、担い手への集積を図るなど生産性向上の取組みを推進することで生産拡大を図ります。

カ 備蓄米
該当なし。

(3) 麦・大豆・飼料作物

ア 麦
該当なし。

イ 大豆

大豆については、コスト低減技術や担い手への集積を図るなど生産性向上の取組みおよび生産コストの削減に努め作付拡大を目指し、付加価値の高い納豆や豆腐、みそ、醤油等への商品加工に結び付けます。

ウ 飼料作物

畜産は、中山間地域の活性化において重要な役割を担っています。このため、転作田の有効活用による飼料生産基盤の拡大を図り、耕畜連携による安定的な飼料供給を推進します。また、栽培管理技術の高位平準化、優良草種の導入による収量の確保及び品質の向上を図り、飼料作物の効率的生産に努めます。

(4) そば、なたね

ア そば

そばについては、「手打ちそば」として、直売所や公民館等での地域の交流やグリーンツーリズムによる田舎体験等の中で活用を図るとともに、山菜や野菜等との組み合わせにより付加価値を高める取組みを推進します。

イ なたね

該当なし。

(5) 高収益作物（園芸品目）

ア 野菜

野菜の周年供給体制づくりに向けた、生産の組織化、地域性を活かした品目の確立を目指すとともに、トレーサビリティの充実による食の安全・安心を意識した野菜作りを推進します。

トマト、きゅうり、なす、いんげんを主品目と位置づけ積極的な拡大を図り施設栽培や被覆栽培の普及・定着化による品質の向上、作期幅の拡大、作柄の安定を推進し出荷拡大を図ります。

葉茎菜類については、ニラの被覆栽培と露地栽培を組み合わせた周年出荷体制を確立するとともに作業の省力化に努めます。

玉川村の野菜を積極的にPRし、市場販売や直売所、更に学校給食等における食材活用を図り、地産地消を絡めた販売体制の構築を図ります。

イ 果樹

該当なし。

ウ 花き

花きについては、販売用としてりんどう、小菊等の栽培に努め、遊休地の活用や、集落営農組合の中での作付を推進します。

生産量の増大と栽培技術の向上を図り、高冷地を利用した品質及び花持ちの良さを積極的にPRし、併せて直売所等での販売を推進します。

エ その他雑穀

該当なし。

(6) 畑地化の推進

水田の畑地化面積に対応して取組を推進し、高収益を目的として取り組めるように進めます。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度の作付面積 (ha)	今年度の作付面積 (ha)	2020年度の目標作付面積 (ha)
主食用米	41.6	41.6	41.6
加工用米	0	0.3	1.0
備蓄米	0	0	0
米粉用米	0	0	0
飼料用米	3.1	3.1	3.1
WCS用稲	0.7	0.7	0.7
麦	0	0	0
大豆	0	0.5	0.7
飼料作物	2.5	2.5	2.5
そば	0	0.3	0.4
その他地域振興作物	5.3	5.7	6.45
アスパラガス	0.1	0.3	0.5
きゅうり	1.1	1.1	1.1
とまと	1.7	1.7	1.7
なす	0.1	0.1	0.1
にら	0.3	0.5	1.0
いんげん	0	0	0
かぼちゃ	1.7	1.7	1.7
ブロッコリー	0	0	0
花き	0	0	0.05
その他	0.3	0.3	0.3
計	53.2	54.7	56.45

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物 (基幹作物)	使途名	目標	目標	
				前年度(実績)	目標値
1	飼料用米 (一般品種・多 収品種) (基幹作物)	飼料用米推進 支援	飼料用米の作付面積 (うち生産性向上の 取組面積) 飼料用米(一般品種、 多収品種)の生産費 (平均値)	(2019年度) 3.1ha (2.43ha) 14,584円/60kg	(2020年度) 3.1ha (2.5ha) 13,854円/60kg
2	WCS用稲 (基幹作物)	WCS用稲の団 地化によるコ スト削減支援	WCS用稲作付面積 (うち生産性向上の 取組面積) WCS用稲生産量	(2019年度) 0.7ha (0.56ha) 1,800kg/10a	(2020年度) 0.7ha (0.6ha) 1,980kg/10a
3	野菜 花き (基幹作物)	地域振興作物 助成	地域振興作物の 作付面積	(2019年度) 野菜:5.2ha 花き:0ha 合計:5.2ha	(2020年度) 野菜:5.2ha 花き:0.05ha 合計:5.25ha
4	飼料用米の生産 ほ場の稲わら (基幹作物)	わら利用 (耕畜連携)	飼料用米の稲わらの 利用面積	(2019年度) 2.36ha	(2020年度) 2.4ha

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり